

第2章

館山市まち・ひと・しごと創生 総合戦略

第1節 はじめに

1. 総合戦略について

「館山市まち・ひと・しごと創生 総合戦略」（以下「総合戦略」という。）は、まち・ひと・しごと創生法に基づき、「館山市人口ビジョン」を踏まえ、館山市における基本目標や目指す方向性（政策分野）、具体的な施策を定めたものです。

2. 基本方針

（1）基本的な考え方

① 人口減少・少子高齢社会を見据えた持続可能なまちづくり

まちの活力を維持し、地方創生を成し遂げるため、都心から約1時半という地理的優位性と恵まれた自然環境を最大限に活かし、過度な人口減少を抑えるとともに、人口減少・少子高齢社会を見据えた持続可能なまちづくりに努めます。

② まち・ひと・しごとの創生と好循環の確立

若者の移住・定住の促進、安心して生活できる環境の整備、それに基づく結婚・出産・子育ての希望の実現のため、安定した仕事の創出が急務です。

「しごと」の創出により、館山市への「ひと」の流れを生み出し、幅広い世代が“住みたい”“住み続けたい”と思える、安全・安心で、持続可能なまちづくりを進め、さらなる「まち」の活性化・魅力向上につながる好循環の確立を目指します。

（2）他の戦略・計画との関係

① 国及び県の総合戦略との関係

国の「まち・ひと・しごと創生総合戦略」や千葉県地方創生「総合戦略」の基本的な考え方や施策の方向性を勘案しつつ、館山市独自の施策を展開していきます。

② 「第4次館山市総合計画」との関係

平成28年度から32年度を計画期間とする『第4次館山市総合計画』とあわせ、総合戦略では、「人口減少の克服」「まち・ひと・しごと創生」の実現に向けた施策をより重点的に進めます。

(3) 総合戦略の取組体制

① 「館山市まち・ひと・しごと創生本部」(内部組織)の設置

副市長を本部長、教育長を副本部長、全部長を本部員とする「館山市まち・ひと・しごと創生本部」を設置し、部局間の緊密な連携のもと、取組の推進を図ります。

② 「総合戦略推進組織」(外部組織)による効果検証と

PDCAサイクルの確立

各界各層の市民代表からなる「館山市総合計画審議会」を「総合戦略推進組織」と位置付け、『第4次館山市総合計画』とあわせた進捗状況の確認・効果検証を行い、「PDCAサイクル」*による取組の改善と効果的な実施に努めます。

*PDCAサイクル

事業活動における管理業務を円滑に進めるマネジメント手法の一つ。

Plan(計画)、Do(実施)、Check(評価)、Action(改善)の4つの段階を繰り返すことにより、業務の継続的な改善を推進する。

③ 広域連携による取組の推進

広域的な対策が必要な課題への対応や、より効果的な施策の推進のため、安房地域の3市1町をはじめとした地域間の連携を図り、実効性の高い取組を推進します。

④ 支援制度の積極的活用

地方創生交付金などの財政支援、「地方創生コンシェルジュ制度」*などの人的支援をはじめ、国の支援制度を積極的に活用します。

*地方創生コンシェルジュ制度

地方公共団体が地方創生の取組を進めるにあたり、国が各府省に担当窓口となる職員を選任し、積極的に支援するために設置した相談窓口。

3. 総合戦略の構成

(1) 基本目標

館山市の特性を踏まえ、次のとおり基本目標を定めます。

- ◆ “海の魅力に磨きをかける ～ 海の魅力UP ～
- ◆ “食”の豊かさで人をひきつける ～ 食の豊かさUP ～
- ◆ “若者”の夢と希望をかなえる ～ 若者の元気UP ～
- ◆ 未来に誇れる“ふるさと愛”をはぐくむ ～ ふるさとへの誇りUP ～

(2) 目指す方向性（政策分野）と講ずべき施策

国の総合戦略が定める政策分野を勘案し、基本目標に対する目指す方向性（政策分野）と、そのために講ずべき施策を体系づけて定めます。（別紙：概要版参照）

目指す方向性（政策分野）

「しごと」の創出 : 館山市の特性を活かした多様な「しごと」の創出

「ひと」の流れ : 館山市への「ひと」の流れをつくる

結婚・出産・子育てのしやすい「まち」 : 結婚・出産・子育てのしやすい「まち」づくり

持続可能な「まち」 : 安全・安心で、持続可能な「まち」づくり

(3) 具体的な施策内容（主な事業等）

講ずべき施策について、計画期間（5年間）のうちに実施する具体的な施策内容（主な事業等）を定めます。

(4) 数値目標・重要業績評価指標（KPI）の設定

基本目標ごとに、目指す方向性（政策分野）について、5年後の「数値目標」を設定します。

また、基本目標に対する各施策の効果を客観的に検証するため、講ずべき施策ごとに「重要業績評価指標（KPI）*」を設定します。

*重要業績評価指標（KPI）

Key Performance Indicator の略称。

事業ごとの目標の達成度合いを確認するための指標。

4. 総合戦略の計画期間

平成 27 年度から平成 31 年度までの5年間とします。

第2節 施策の展開

基本目標 ①

“海”の魅力に磨きをかける ～海の魅力UP～

館山市は、都心から約1時間半というアクセス性を有し、豊かな自然に恵まれ、とりわけ風光明媚な海と海岸は、古来より現在に至るまで、多くの人々を魅了し、ひきつけるとともに、市民の生活にさまざまな恵みをもたらしてきました。

内湾と外洋、暖流と寒流といった変化に富んだ館山の海は、スキューバダイビングを始め、近年盛んになってきているシーカヤック^{*1} やスタンドアップパドルボード^{*2} などのマリンスポーツ、夏の海水浴の適地として知られています。

また、トライアスロン競技会場地としても定着してきており、平成24年には、ロンドンオリンピックの代表選考会も兼ねたアジア選手権大会の開催地にもなりました。

館山湾の南側に位置する沖ノ島は、海面下にあるおよそ8000年前の縄文時代の遺跡や世界的にも注目されている北限域のサンゴを育む貴重な自然を有しており、それらの歴史や自然に親しむこともでき、ビーチコーミング^{*3} などの新たな魅力も生み出しています。

また、南欧風の建物が建ち並ぶ北条海岸から波静かな鏡ヶ浦越しに望む富士山は、全国に誇れる絶景で、特に、夕景の富士はロマンティックな雰囲気醸し出します。

こうした“海”の魅力は、市民の宝であり大切な財産です。

このような“海”の魅力にさらに磨きをかけ、「館山ならではの」「館山でしかできない」「館山らしさ」を追求し、周辺市町と広域的な連携を図りながら広く発信し、多くの人々や企業を呼び込み、既存の観光産業や飲食・サービス業等のビジネスチャンスを創出・拡大するとともに、起業支援にも力を入れ、新たな仕事の創出、地域経済の活性化を図っていきます。

● 数値目標

| 目指す方向性 | 指標 | 基準値 | 目標値 |
|----------|------------|-------------------------|---------------------------|
| 「しごと」の創出 | 企業誘致件数 ※ | (H26年度) 0件 | (5カ年累計) 10件 |
| | 起業・創業者数 | (H26年度) 6人 | (H31年度) 16人 |
| 「ひと」の流れ | 観光入込客数 | (H26年度) 163万人 | (H31年度) 200万人 |
| | 宿泊客数 | (H26年度) 38万人 | (H31年度) 50万人 |
| | 移住世帯数・移住者数 | (H26年度) 23世帯・ 58人 | (5カ年累計) 100世帯・ 300人 |

※ 業種・分野を特定しない。

➡ マリンレジャー関連産業等の誘致

「しごと」の創出

館山の海は、海水浴以外にも多様なマリンレジャーが体験できる環境があります。このような恵まれた環境を活かし、マリンレジャー関連産業等に対する情報発信やトップセールス*4を行い、企業誘致を積極的に推進していきます。

| 重要業績評価指標（KPI） | 基準値 | 目標値 |
|-------------------|---------------|-----------------|
| 企業訪問（トップセールス）件数 ※ | （H26年度） 4件 | （5カ年累計） 100件 |

※ 業種・分野を特定しない。

➡ 海の魅力を活かしたビジネスの起業・創業支援

「しごと」の創出

海に関連したビジネスの起業・創業に対し、館山市起業支援補助金や融資制度による支援を行い、館山の海の魅力向上と地域経済の活性化を図ります。

| 重要業績評価指標（KPI） | 基準値 | 目標値 |
|---------------|---------------|----------------|
| 起業・創業支援者数 | （H26年度） 8人 | （H31年度） 32人 |

➡ 観光関連事業従事者の確保支援

「しごと」の創出

館山市の優れた地域資源を活かし、来訪者のニーズに対応した『おもてなし』の心あふれる、魅力ある観光地「観光立市たてやま」の確立のため、観光関連事業従事者の確保を支援します。

| 重要業績評価指標（KPI） | 基準値 | 目標値 |
|---------------|---------------|----------------|
| 求職セミナー開催数 ※ | （H26年度） 2回 | （5カ年累計） 10回 |

※ 観光関連事業従事者以外を対象とするセミナーを含む。

➡ 水産業の振興

「しごと」の創出

市内5漁業協同組合の合併を促進し、漁協の経営基盤の強化を図るとともに、新規漁業就業者の増加に向けた取組や、漁港の利活用を促進することにより、漁港を中心とした賑わいの創出、地域の活性化を図ります。

| 重要業績評価指標（KPI） | 基準値 | 目標値 |
|-----------------|---------------|---------------|
| 漁業者インターンシップ事業*5 | （H26年度） 3回 | （H31年度） 6回 |

海の魅力を活かしたシティセールス^{*6}

「ひと」の流れ

多様性に満ちた館山の海の魅力を活かし、報道機関への積極的なアプローチやフィルムコミッション^{*7}の強化を図るとともに、ホームページやSNS^{*8}、動画配信など、多様な情報媒体による魅力発信に努めます。

また、県や安房3市1町と連携した広域的な情報発信により、安房地域が一体となった効果的なPR活動を行います。

| 重要業績評価指標（KPI） | 基準値 | 目標値 |
|--|------------------|-------------------|
| 館山市公式ホームページ閲覧件数 | (H26年度) 258万回 | (H31年度) 300万回 |
| Facebook ^{*9} の“いいね”件数 | (H26年度) 746件 | (H31年度) 2,000件 |
| パブリシティ ^{*10} による報道機関へのリリース件数 [*] | (H26年度) 685件 | (H31年度) 1,000件 |
| 情報発信による各種メディア（Web・雑誌・テレビ等）への露出件数 [*] | (H26年度) 300件 | (H31年度) 350件 |
| 観光プロモーション先新規開拓件数 (*平成26年度観光プロモーション実施件数 75件) | (H26年度) — | (5カ年累計) 50件 |

※ 分野を特定しない。

海と暮らすライフスタイルの提供による移住・定住促進

「ひと」の流れ

都心から約1時間半というアクセスの良さ、年間を通じた温暖な気候、海の魅力と豊かな自然環境を有する館山市は、移住・定住だけでなく、二地域居住^{*11}にも適した場所です。

海のもたらす恵みを享受し、ゆとりと潤いのある「館山ならではの」、海と暮らすライフスタイルを提案し、館山市への人の流れを生み出すため、移住相談体制の充実、移住希望者への支援強化、移住しやすい環境の整備、空き家バンク制度の利用促進、移住・定住に係る情報提供・PRの強化を図ります。

| 重要業績評価指標（KPI） | 基準値 | 目標値 |
|---------------|-----------------|-----------------|
| 移住相談件数 | (H26年度) 141件 | (H31年度) 160件 |

海の魅力テーマとした外国人観光客の誘致

「ひと」の流れ

成田・羽田両国際空港から2時間以内という地理的優位性と、鏡ヶ浦越しに望む夕景の富士や、「鮎の町・館山」など、外国人観光客の興味・関心をひきつけることができる館山市の潜在力を十分に発揮し、インバウンド^{*12}を強化していくため、観光スポットや飲食店・宿泊施設等を掲載した英文パンフレットの作成や体験観光のブラッシュアップ^{*13}による観光メニューの充実、外国人向けモニターツアーの実施、市内宿泊施設へのWi-Fi^{*14}整備支援など、外国人旅行者の受入態勢の充実を図ります。

| 重要業績評価指標（KPI） | 基準値 | 目標値 |
|----------------------|-----------------|-------------------|
| 外国人宿泊客数 | (H26年度) 759人 | (H31年度) 2,000人 |
| 民間宿泊施設へのWi-Fi整備支援箇所数 | (H26年度) — | (5カ年累計) 40カ所 |

安心して楽しめる海の魅力の向上

「ひと」の流れ

魅力あふれる館山の海を、安心して存分に楽しめるように、海岸利用者のマナー向上対策や津波対策を強化し、安全・安心な環境を確保します。

また、陸と海を結ぶ交流拠点「渚の駅」たてやまの機能強化、旅客船の定期航路化や寄港船舶の増加に向けたポートセールス^{*15}、沖ノ島の貴重な自然資源保護のための取組、海岸線を巡るツーリング^{*16}コースの環境整備、レンタサイクル乗り捨てシステムの構築等により、地域資源の魅力向上を図り、館山市への交流人口の増加を促します。

特に、レンタサイクル乗り捨てシステムについては、サイクルツーリズム^{*17}の促進のため、安房地域が一体となった取組が必要であり、広域的な連携のもと、推進していきます。

| 重要業績評価指標（KPI） | 基準値 | 目標値 |
|-----------------|-------------------|-------------------|
| 「渚の駅」たてやま年間来館者数 | (H26年度) 14.8万人 | (H31年度) 40万人 |
| レンタサイクル貸出数 | (H26年度) 3,600台 | (H31年度) 4,000台 |

▶ 個性豊かな海の魅力を活かした観光振興

「ひと」の流れ

海水浴をはじめとするマリレジャーやブルーツーリズム^{*18}の推進、ウミホテル観察会など、海を活用したイベントの開催、「たてやま海まちフェスタ」や「館山湾花火大会」「南総里見まつり」など、館山ならではの特色あるイベントの開催により、交流人口の増加を図ります。

また、館山市の重要な観光資源である美しい砂浜・海岸の維持に努めるとともに、北条海岸芝生広場を活用したサービススペースの創出と継続的なイベントの開催など、地域資源に磨きをかけることで、観光振興を図ります。

| 重要業績評価指標（KPI） | 基準値 | 目標値 |
|------------------------------|-----------------|-----------------|
| 観光イベント実施件数 （参加者数1万人以上のもの） | （H26年度） 2件 | （H31年度） 3件 |
| 観光イベント来場者数 | （H26年度） 24万人 | （H31年度） 26万人 |

▶ オリンピック・パラリンピックの

「ひと」の流れ

レガシー（遺産）^{*19}を見据えたまちづくり

2020年東京オリンピック・パラリンピックの開催に向け、館山市の魅力の一つである海をはじめとする豊かな自然環境や既存施設などを最大限有効活用した、事前キャンプ誘致や各種スポーツイベントの支援、スポーツ観光等を推進し、交流人口の増加による経済振興を図ります。

また、市民のスポーツへの関心を高め、健康・福祉の増進など、あらゆる分野と連携した「スポーツによるまちづくり」を進め、2020年以降も未来の市民が誇りに思うレガシー（遺産）の創造と継続的なまちの活性化を図ります。

| 重要業績評価指標（KPI） | 基準値 | 目標値 |
|---------------|-------------------|-----------------|
| スポーツ観光客数 | （H26年度） 32.8万人 | （H31年度） 36万人 |

基本目標 ②

“食”の豊かさで人をひきつける ～食の豊かさUP～

館山市は、年間平均気温 16℃以上という温暖な気候と緑豊かな大地、沖合いには黒潮と親潮がぶつかる豊かな漁場を有することで、多彩な食の恵みを楽しんできました。

この地域の豊かで多彩な食材を、観光客への『おもてなし』としてさらに活かし、観光の目的の1つである「食」の魅力を高めることは、「観光立市たてやま」の確立において、必要不可欠と言えます。

豊かな農水産資源を観光・産業面で活かすことは、地域外からの収益の増加だけでなく、地域内でのお金と物の循環を活発化させ、農水産業の6次産業化^{*20}、農商工連携、地産地消などを推進し、農水産業を根強い産業へと押し上げるとともに、地域経済そのものを発展させ、新たな仕事の創出や交流人口・定住人口の増加にもつながっていきます。

このような好循環を生み出すため、館山の食の恵みを地域内で流通させる体制を構築するとともに、生産者の経営基盤を強化し、生産力・供給力の向上を図ります。

また、市民や市内事業者等へ、地域の食材・食文化に対する理解を促進し、その素晴らしさを次世代や来訪者に伝えていくことで、市民が「館山の食べ物はおいしい」と全国に誇れるまち、また、来訪者が「館山のおいしい食べ物をまた食べに来たい」と思うまちを目指した「食のまちづくり」を進めます。

● 数値目標

| 目指す方向性 | 指標 | 基準値 | 目標値 |
|-----------|---------------|-------------------|-------------------|
| 「しごと」の創出 | 【再掲】起業・創業者数 | (H26年度) 6人 | (H31年度) 16人 |
| 「ひと」の流れ | 【再掲】観光入込客数 | (H26年度) 163万人 | (H31年度) 200万人 |
| 持続可能な「まち」 | 地元野菜等需要量（家庭用） | (H26年度) 1.18億円 | (H31年度) 1.71億円 |
| | 地元野菜等需要量（業務用） | (H26年度) 1.77億円 | (H31年度) 2.56億円 |

➡ 「食のまちづくり」による農水産業の魅力向上

「しごと」の創出

地域で生産される多彩で豊かな農産物や新鮮な海産物などを活かし、農水産資源のブランド化・高品質化を推進する取組や農水産物の販路拡大、加工品の開発を支援するとともに、「食のまちづくり」拠点施設の整備を推進し、農水産物の収益拡大、農水産業の経営安定化を目指します。

| 重要業績評価指標（KPI） | 基準値 | 目標値 |
|---------------|--------------|---------------|
| 特産加工品の開発数 | (H26年度) — | (5カ年累計) 5品 |

➡ 食に関するビジネスの起業・創業支援

「しごと」の創出

市民にも都市部の住民にも高く評価されている館山の食の豊かさは、館山の強みです。食材の宝庫としての機能を活かし、「食」に関するビジネスの起業・創業を支援し、地域経済の活性化と新たな雇用の場の創出を図ります。

| 重要業績評価指標（KPI） | 基準値 | 目標値 |
|-------------------|---------------|----------------|
| 【再掲】 起業・創業支援者数 | (H26年度) 8人 | (H31年度) 32人 |

➡ 農業の成長産業化支援

「しごと」の創出

農業生産者が主体となり、加工・販売等の事業者と連携しながら、農産物の付加価値向上を目的とした6次産業化の推進や、農業の新たな担い手の育成確保、経営基盤強化としての企業参入の推進、農業法人化、地域ぐるみの組織的な農業経営体の育成・確保、グリーンツーリズム^{*21}の推進等により、農業の成長産業化を図ります。

| 重要業績評価指標（KPI） | 基準値 | 目標値 |
|-----------------|-----------------|-----------------|
| 食のまちづくりイベント開催回数 | (H26年度) 6回 | (H31年度) 12回 |
| 認定新規就農者数 | (H26年度) 2人 | (H31年度) 12人 |
| 認定農業者数 | (H26年度) 123人 | (H31年度) 135人 |
| 市内農業法人数 | (H26年度) 14法人 | (H31年度) 20法人 |

➡ 豊かな食の恵みを活かしたシティセールス

「ひと」の流れ

ご当地グルメや房州いちご、神戸レタス、房州枇杷、房州鯔など、ブランド力のある豊かな食の恵みを活かし、報道機関へのアプローチやフィルムコミッションの強化、各種キャンペーンの実施、マスコットキャラクター「ダッペエ」の活用によるプロモーションなど、積極的な情報発信に努めるとともに、広域連携による一体的な情報発信を行います。

| 重要業績評価指標（KPI） | 基準値 | 目標値 |
|--|------------------|-------------------|
| 【再掲】 館山市公式ホームページ閲覧件数 | (H26年度) 258万回 | (H31年度) 300万回 |
| 【再掲】 Facebookの“いいね”件数 | (H26年度) 746件 | (H31年度) 2,000件 |
| 【再掲】 パブリシティによる報道機関への リリース件数 ※ | (H26年度) 685件 | (H31年度) 1,000件 |
| 【再掲】 情報発信による各種メディア（Web ・雑誌・テレビ等）への露出件数 ※ | (H26年度) 300件 | (H31年度) 350件 |
| 【再掲】 観光プロモーション先新規開拓件数 (*平成26年度観光プロモーション実施件数 75件) | (H26年度) — | (5カ年累計) 50件 |

※ 分野を特定しない。

➡ 農業生産基盤の維持保全

持続可能な「まち」

農業生産者の高齢化や担い手不足により、耕作放棄地が拡大しています。

また、イノシシなどの有害鳥獣による農作物の被害は年々増加傾向にあります。

「食のまちづくり」を進める上で、農業生産基盤を維持・保全し、生産力の強化を図ることは極めて重要です。

耕作放棄地の発生防止や解消に努め、意欲ある農業経営者への優良農地の集積・集約化を促進するとともに、有害鳥獣対策を強化していきます。

| 重要業績評価指標（KPI） | 基準値 | 目標値 |
|---------------|--------------------|--------------------|
| 耕作放棄地 | (H26年度) 351ha | (H31年度) 351ha |
| 防護柵の設置補助 | (H26年度) 10,506m | (5カ年累計) 50,000m |

食育と地産地消の促進

農水産業の果たしている多面的な役割や健康と生命を支える“食”の大切さ、地域の食文化への理解、安全・安心な食材による地域への誇りなどを深めるため、市民への食育の推進を図るとともに、年間を通じて、地域の農水産物を地域で活用できる環境を整備し、地産地消の推進、地域内流通の活性化、農水産物の消費拡大を図ります。

| 重要業績評価指標（KPI） | 基準値 | 目標値 |
|---------------|-------------------|--------------------|
| 地産地消推進店*22 数 | (H26 年度) 137 店 | (H31 年度) 170 店 |
| 農産物の規格外品の活用量 | (H26 年度) — | (H31 年度) 900 kg |

基本目標 ③

“若者”の夢と希望をかなえる ～若者の元気UP～

館山市の将来を担う“若者”は、館山を元気にする原動力です。

『第4次館山市総合計画』を策定するにあたり、平成26年11月に、安房地域に所在する8つの高等学校等の2年生を対象に実施した高校生アンケートでは、「今住んでいる地域が好き」な生徒は約6割（59.3%）を占め、「地元で就職したい」と思う生徒は4割強（43.6%）いることがわかりました。

しかし、実際には、これら生徒の多くが、高校を卒業すると大学等への進学や就職により市外に転出してしまいます。就職については、現在、有効求人倍率は県内でも高く、求人の多い地域と言えますが、その多くが、看護職・介護職などの医療・福祉系サービス業や観光・飲食サービス業に偏っており、“若者”の多様な就業ニーズと合致していないため、市外へと職を求めて転出するものと考えられます。

一方で、館山市は、近年、都市住民等の移住を多数受け入れており、特に、若い子育て世代の移住者が多いことが特徴です。

館山市は、地元で育った若者たちが、地域に強い愛着を持っているだけでなく、都市部の若者からも選ばれる、高い潜在力を有していると考えられます。

この潜在力を十分に活かし、館山で生まれ育った若者が、本人の希望どおり、館山に残ることができる、あるいは、戻ってこれることができる、さらには、都市住民等から選ばれ、移住してきてもらうためには、魅力ある就業の場の確保が何よりも重要です。

そこで、多様な就業の場の創出、起業や創業にチャレンジする若者への積極的な支援、職業のマッチングなどにより、若者の夢と希望をかなえ、経済的・精神的に安定できる仕事の確保に努めます。

また、若者のネットワークを支援し、まちの活性化を図るとともに、若者の結婚・出産・子育ての希望をかなえるため、「切れ目のない」一貫した支援体制を構築し、若者が豊かで充実した生活を送ることができるよう、市を挙げて若者の定住促進に取り組みます。

● 数値目標

| 目指す方向性 | 指標 | 基準値 | 目標値 |
|------------------------|------------------------|-------------------------|---------------------------|
| 「しごと」の創出 | 【再掲】企業誘致件数 ※ | (H26年度) 0件 | (5カ年累計) 10件 |
| | 【再掲】起業・創業者数 | (H26年度) 6人 | (H31年度) 16人 |
| 「ひと」の流れ | 【再掲】移住世帯数・移住者数 | (H26年度) 23世帯・ 58人 | (5カ年累計) 100世帯・ 300人 |
| 結婚・出産・子育ての しやすい「まち」 | 合計特殊出生率 ^{*23} | (H26年度) 1.53 | (H31年度) 1.80 |
| | 出生数 | (H26年) 311人 | (H31年度) 320人 |

※ 業種・分野を特定しない。

➡ 若者の希望に応える雇用環境の創出

「しごと」の創出

企業誘致を推進するためのトップセールスの実施や市内企業に関する情報の収集・提供、市内進出を希望する企業へのフォローアップ^{*24}など、多様な職種選択等に対応できる雇用対策に取り組み、若者の希望に応えるため、安定した仕事の創出に努めます。

| 重要業績評価指標（KPI） | 基準値 | 目標値 |
|---------------------------|---------------|-----------------|
| 【再掲】 企業訪問（トップセールス）件数 ※ | （H26年度） 4件 | （5カ年累計） 100件 |

※ 業種・分野を特定しない。

➡ チャレンジする若い起業者・創業者への支援強化

「しごと」の創出

館山市起業支援補助金や融資制度の活用に加え、起業・創業に関する情報やノウハウを豊富に有する商工会議所や金融機関等と連携し、地域における起業・創業希望者を支援します。

| 重要業績評価指標（KPI） | 基準値 | 目標値 （H31年度） |
|-------------------|---------------|----------------|
| 【再掲】 起業・創業支援者数 | （H26年度） 8人 | （H31年度） 32人 |

➡ 雇用の需要と供給のマッチング強化

「しごと」の創出

館山市は県内でも有効求人倍率は高いものの、特定の職種、勤務形態での求人が多く、求職者の希望する仕事とのミスマッチが生じていることから、ハローワークや近隣市町と連携したセミナーや安房地域で就職を希望する移住希望者（学生を含む）と地元企業との雇用マッチングイベント^{*25}の開催、地域の雇用ニーズを捉えた人材育成を行うことにより、求人・求職のミスマッチ解消に努めます。

| 重要業績評価指標（KPI） | 基準値 | 目標値 |
|-------------------|---------------|----------------|
| 【再掲】 求職セミナー開催数 | （H26年度） 2回 | （5カ年累計） 10回 |

➡ 商業・工業の活性化によるまちの元気創造

「しごと」の創出

まちなか再生事業の実施や商店街の環境整備の推進など、市、商工会議所、商店街、地域おこし協力隊等と連携し、地域の商店及び商店街の魅力を高める取組を支援するとともに、商工関係団体や中小企業事業者の組織強化、経営安定化に向けた支援により、地域経済の活性化・発展を目指します。

| 重要業績評価指標（KPI） | 基準値 | 目標値 |
|---------------|------------------|------------------|
| 空き店舗数 | (H26年度) 414店舗 | (H31年度) 410店舗 |

➡ 若者のアイデア・行動力を活かした地域活性化の推進

「ひと」の流れ

産官学の連携による事業の展開、館山市で生まれ育った人たちのUターン促進や交流機会を創出する同窓会開催の支援、都市部若者のアイデア・行動力を活かした地域おこし協力隊^{*26}の活用等により、若者の地元定着や地域をつなぐネットワーク強化を図り、地域活性化を推進します。

| 重要業績評価指標（KPI） | 基準値 | 目標値 |
|------------------|----------------|----------------|
| 地域おこし協力隊委嘱者累計数 ※ | (H26年度) 10人 | (H31年度) 12人 |

※ 事業開始年度からの委嘱者累計実績。

➡ 出会い・婚活支援

結婚・出産・子育てのしやすい「まち」

国立社会保障・人口問題研究所の出生動向基本調査（2010年）（以下「出生動向基本調査」という。）によれば、独身男女の約9割は結婚の希望を持つとされますが、出会いの場の減少や晩婚化の進展などにより、希望を実現できていないのが現状です。

結婚に対する希望を実現させるため、既存の観光資源を連携させ、地域の新たな魅力づくりによる交流人口の増加等を目指す「恋人の聖地^{*27}」の活用や、出会い・婚活事業の支援などにより、独身男女の出会いの場を提供するとともに、地域の活性化の推進や移住定住の促進、結婚奨励による少子化対策を図ります。

| 重要業績評価指標（KPI） | 基準値 | 目標値 |
|------------------|---------------|-----------------|
| 出会い・婚活支援事業開催数 | (H26年度) 1回 | (5カ年累計) 5回 |
| 「恋人の聖地」協力団体・事業者数 | (H26年度) — | (5カ年累計) 20団体 |

➡ 安心して妊娠・出産できる環境づくり

結婚・出産・子育てのしやすい「まち」

出生動向基本調査によれば、理想子ども数、予定子ども数ともに減少傾向が続いているものの、全国的にみれば、いずれも2人以上の水準を維持しています。

将来的に館山市の出生数を増やしていくためには、出生に関する希望を実現させることが重要であり、若い世代を対象とした妊娠・出産に関する正しい知識の普及・啓発や、妊娠・出産・子育てに係る相談体制の強化、産前・産後サポートの充実を図り、安心して妊娠・出産できる環境づくりを目指します。

| 重要業績評価指標（KPI） | 基準値 | 目標値 |
|----------------------------------|--------------|---------------|
| 妊娠・出産を取り巻く社会的障壁を取り除くための意識啓発の場の設定 | (H26年度) — | (H31年度) 4回 |

➡ “子育てが楽しくなる”子育て支援の強化

結婚・出産・子育てのしやすい「まち」

保育園・幼稚園・こども園施設の整備充実を図るとともに、延長保育や土曜保育、預かり保育の充実、「元気な広場^{*28}」における親子の交流拠点施設としての機能強化、ファミリー・サポート・センター事業^{*29}の充実、子育て世帯の経済的負担の軽減、三世同居・近居^{*30}の推進、働きやすい環境の整備、公設学童クラブの安定的な運営等により、子育てに関する精神的負担を軽減し、“子育てが楽しくなる”子育て支援の強化を図ります。

| 重要業績評価指標（KPI） | 基準値 | 目標値 |
|----------------------------------|-----------------|-----------------|
| 「出張子育てひろば ^{*31} 」の実施箇所数 | (H26年度) 1カ所 | (H31年度) 3カ所 |
| 普通出生率 ^{*32} | (H26年度) 6.00 | (H31年度) 6.00 |
| 赤ちゃんの駅 ^{*33} 整備数 | (H26年度) 35カ所 | (H31年度) 40カ所 |
| ファミリー・サポート・センター会員数 | (H26年度) 360人 | (H31年度) 500人 |
| 公設学童クラブ数 | (H26年度) — | (H31年度) 8カ所 |

▶ 地域ではぐくむ教育環境の整備

放課後子供教室の推進や図書館の児童サービスの充実により、未来を担う心豊かで健やかな子どもを地域で育む環境づくりに努めるとともに、市内高等学校のブランド化に向けた連携や市内に施設を有するなど、館山市と縁がある大学に対して、「サテライトキャンパス^{*34}」の誘致に向けた取組を行うなど、地域の教育力の向上を目指します。

| 重要業績評価指標（KPI） | 基準値 | 目標値 |
|-------------------------|--------------|----------------|
| 放課後子供教室と学童クラブの一体的な実施箇所数 | (H26年度) — | (H31年度) 8カ所 |

基本目標 ④

未来に誇れる“ふるさと愛”をはぐくむ

～ふるさとへの誇りUP～

地域活性化の主役は、館山で暮らし、活動する市民です。

そして、その原動力は、「館山をもっと良くしたい」という熱い思いであり、「ふるさと」に対する誇りと愛着心です。

『第4次館山市総合計画』の策定にあたり、平成26年8月に実施した市民アンケートでは、「館山市に愛着がある」と答えた市民は7割を超えていました。

一方、まちづくりへの市民参加意識では、「自分たちのまちを住みよくするために、自分から進んで協力したい」と答えた方は16.2%にとどまりましたが、「自分からは進んでやらないが、申し込まれば協力したい」と答えた方が50.2%と半数を占めていたことから、多様な市民参加の場と機会を創出することで、多くの市民の協力と参画を得られる可能性があることがわかりました。

「館山市人口ビジョン」で示すように、館山市の人口は今後も減少が見込まれ、高齢化も進行します。

そのような状況において、まちの活力を維持し、笑顔あふれる元気なまちをつくっていくためには、市民相互の支え合いや市民と行政との協働、地域の課題解決に向けた取組に対する市民の参画など、市民の協力なくしては成り立ちません。

そこで、「ふるさと館山」に対する誇りと愛着心をはぐくみ、地域の主体として市民が積極的にまちづくり・地域づくりに参加できる環境づくりと、地域が一体となって支え合う体制づくりを進めていきます。

また、将来の人口規模を見据え、行政サービスの在り方を見直し、効率的な行政運営の実現に向けて努力していくとともに、住み慣れた地域で元気に暮らし続けることができるよう、安全・安心なまちづくり、医療・福祉の充実と健康増進活動の推進、公共交通や道路網などの整備に継続して取り組んでいきます。

● 数値目標

| 目指す方向性 | 指標 | 基準値 | 目標値 |
|------------------------|----------------|-------------------------|---------------------------|
| 「しごと」の創出 | 介護職員新規就業者数 | (H26年度) 15人 | (5カ年累計) 120人 |
| 「ひと」の流れ | 【再掲】移住世帯数・移住者数 | (H26年度) 23世帯・ 58人 | (5カ年累計) 100世帯・ 300人 |
| 結婚・出産・子育ての しやすい「まち」 | 【再掲】合計特殊出生率 | (H26年度) 1.53 | (H31年度) 1.80 |
| | 【再掲】出生数 | (H26年) 311人 | (H31年度) 320人 |
| 持続可能な「まち」 | 常住人口 | (H27年4月) 47,214人 | (H31年4月) 45,357人 |

医療・介護・福祉人材の確保支援

「しごと」の創出

超高齢社会において、医療・介護・福祉分野の充実は、重要な課題です。

安房地域の医療福祉体制は全国的にも恵まれており、地域の就業の場としても重要な位置付けとなっていますが、看護師や介護士などの担い手不足が深刻化してきており、全国的な人材の奪い合いとなっています。

このため、看護師等修学資金の貸付や介護職員初任者研修費用の一部助成により、看護師や介護士等の確保、施設等における雇用確保を図ります。

| 重要業績評価指標（KPI） | 基準値 | 目標値 |
|---------------|----------------|-----------------|
| 介護職員初任者研修受講者数 | (H26年度) 15人 | (5カ年累計) 120人 |

シティプロモーション^{*35}による館山の魅力向上

「ひと」の流れ

地域の誇りは、地域の魅力でもあります。

ふるさと納税を活用した地域の魅力発信や観光スポットとしての歴史文化遺産の活用、地域への愛着と誇りの基ともなっている「祭礼文化」の情報発信、「館山市ならではの」の地域に根差した魅力を発信していきます。

| 重要業績評価指標（KPI） | 基準値 | 目標値 |
|--------------------------|------------------|-------------------|
| 【再掲】 館山市公式ホームページ閲覧件数 | (H26年度) 258万回 | (H31年度) 300万回 |
| 【再掲】 Facebookの“いいね”件数 | (H26年度) 746件 | (H31年度) 2,000件 |

市民スポーツの振興

「ひと」の流れ

生涯スポーツの機会創出や社会体育団体の育成・支援、社会体育施設の整備充実、学校体育施設の開放など、市民スポーツの振興を図り、市民の健康体力の保持増進と地域の活性化を促します。

| 重要業績評価指標（KPI） | 基準値 | 目標値 |
|-----------------|------------------|----------------|
| スポーツ関連イベントの参加者数 | (H26年度) 1.8万人 | (H31年度) 2万人 |

➡ 「生きる力」と「郷土愛」の育成

結婚・出産・子育てのしやすい「まち」

次世代を担う「人」づくり、郷土意識・地域への愛着心を持った児童生徒の育成を図るため、確かな学力、豊かな心、健やかな体を基盤とした「生きる力」を育成する教育の推進、「ふるさと」の歴史・文化・自然など、地域の魅力に関する教育の強化、電子黒板^{*36}の導入などICT（情報通信技術）^{*37}活用による教育環境の構築、学校における食育を推進します。

| 重要業績評価指標（KPI） | 基準値 | 目標値 |
|---------------|---------------|----------------|
| ICTを活用した授業割合 | (H26年度) 2% | (H31年度) 20% |

➡ ふるさとへの誇りと愛着心をはぐくむ教育・事業の推進

結婚・出産・子育てのしやすい「まち」

館山市の自然や歴史、文化など、豊かな地域資源を活用した多種多様な生涯学習機会の提供やサークル活動の支援、生涯学習ボランティア制度の活用による学校支援活動の拡充、ふるさと体験活動の推進、森林・里山の保全に向けた活動などを通じて、地域への誇りや愛着心の醸成を図ります。

| 重要業績評価指標（KPI） | 基準値 | 目標値 |
|------------------------|--|--|
| 市民アンケート 「館山市への愛着」割合 | (H26年度) 「愛着がある」「どちらかとい うと愛着がある」 計 76.1% | (H31年度) 「愛着がある」「どちらかとい うと愛着がある」 計 80.0% |

➡ 医療・介護環境の充実による健康長寿の促進

持続可能な「まち」

地域医療の安定化や地域住民の健康寿命の延伸を目指すコミュニティ医療^{*38}の推進、かかりつけ医・かかりつけ薬局^{*39}の推進に加え、救急医療体制の確保、地域包括ケアシステム^{*40}の構築、保健・医療・福祉に関する総合相談体制の整備を図るとともに、「日本版CCRC^{*41}」の導入について検討します。

| 重要業績評価指標（KPI） | 基準値 | 目標値 |
|-------------------------|------------------|------------------|
| 健康づくりに積極的に取り組む 市民団体数 | (H26年度) 20 団体 | (H31年度) 25 団体 |

➡ 館山の魅力向上に向けた環境整備

持続可能な「まち」

館山市の玄関口である館山駅東口駅前広場を整備し、安全な歩行空間の確保と車両の適正な誘導を図るとともに、市民の憩いの場や観光スポットとしても人気のある城山公園の園路や駐車場等の機能拡充及び市民・行政・企業が一体となった「花のまちづくり」の推進により、館山のまちの魅力向上に努めます。

| 重要業績評価指標（KPI） | 基準値 | 目標値 |
|---------------|---------------|---------------|
| 城山公園の活用イベント数 | (H26年度) 5回 | (H31年度) 7回 |

➡ 公共交通の確保・維持

持続可能な「まち」

市民や公共交通事業者、関係機関と連携・協議しながら、市民や来訪者の移動手段の確保・維持に努めるとともに、高速バスや鉄道の利便性向上について、関係機関に働きかけ、広域交通網の充実を目指します。

| 重要業績評価指標（KPI） | 基準値 | 目標値 |
|---------------|----------------|----------------|
| 路線バスの路線数 ※ | (H26年度) 8路線 | (H31年度) 8路線 |

※ 季節運行の「観光棧橋線」を除く。

➡ 安全・安心なまちづくりの推進

持続可能な「まち」

備蓄食糧や各種資機材の整備等による災害対応力の強化、防災訓練や防災講座を通じた防災知識の普及等による地域防災力の強化、消防団活動の充実に向けた支援、交通安全対策や防犯対策の強化、増加傾向にある空き家の対策に加え、身近な生活道路や排水整備の推進、道路等社会基盤に係る長寿命化対策の実施により、安全・安心なまちづくりを目指します。

| 重要業績評価指標（KPI） | 基準値 | 目標値 |
|---------------|-------------------------|-----------------------|
| 自主防災訓練実施率 | (H26年度) 37% | (H31年度) 50% |
| 備蓄食糧量 | (H26年度) アルファ米 1.2万食分 | (H31年度) アルファ米 3万食分 |
| 防災行政無線デジタル化率 | (H26年度) 70% | (H31年度) 100% |

➡ 官民・広域連携によるまちづくりの推進

持続可能な「まち」

市民やNPO、地域団体等と行政の連携を強化し、より多くの人々が参画する官民連携・協働によるまちづくりを推進するとともに、人口減少問題や地方創生など、共通する地域課題の解決や効果的かつ効率的な行財政運営、行政サービスの向上のため、広域連携によるまちづくりを推進します。

| 重要業績評価指標（KPI） | 基準値 | 目標値 |
|---------------|--------------|---------------|
| 新たな広域連携事業数 | (H26年度) — | (H31年度) 2件 |

➡ 地域を守るコミュニティの活性化

持続可能な「まち」

地域に住む一人ひとりが、地域の一員として生きがいを持ち、安心して暮らすことができるよう、コミュニティ事業や町内会活動を促進し、地域における支え合いや連帯感の醸成、地域の活性化を図ります。

| 重要業績評価指標（KPI） | 基準値 | 目標値 |
|---------------|----------------------|----------------------|
| 町内会加入世帯数 | (H26年度) 20,213 世帯 | (H31年度) 20,300 世帯 |

➡ 公共施設等の計画的・効果的な利用

持続可能な「まち」

将来の人口規模を見据え、長期的な視点による施設の更新・統廃合・長寿命化などを計画的に実施するため、「公共施設等総合管理計画」を策定し、財政負担の軽減・平準化を図るとともに、利用需要の変化に応じた公共施設の最適な配置を目指します。

| 重要業績評価指標（KPI） | 基準値 | 目標値 |
|---------------|-----|-----|
| 計画の策定・実行 ※ | — | — |

※ 平成 28 年度の計画策過程において、目標値の方針を決定します。